

表 作業状況 (内容, 重, 中, 軽作業の別, 労働時間) (数字は労働時間を示す)

I		II				II				IV		V		
第 1 能登谷新吉	ツオロシロフ地区 田口 通正	ハロフスク地区 二本柳 滿	第 5 無煙井一ニ	引地 守	第 46 藤川 幸雄	第 1 阿部 睦男	夕夕 地区 井上 春吉	第 19 稲田 龍一	夕夕 地区 武村 謙	夕夕 地区 田村 正純	夕夕 地区 河野 光雄	夕夕地区 河目 学	夕夕地区 中村 暁	夕夕地区 吉川 朝雄
	第555 スバスク	第525 トーカー	第305 ハロフスク	第 1 ソフガワニ	ビラカン ヒンガン	第532 ソフガワニ	第 6 スコアルタ	第 1 ライケハ	7~11 工口ハハウウウウ	シフキ	第512作業隊 チフハイケン	第 2 カスラ-ロフ	第 4	第5/12 (夕夕地区 56kmと235 km)
掘込 鉄道 (重 8~9)	石灰, セメント工場 運搬, 煉瓦, 製 煉 (重 10~12 時に積込)	鉄道 (重 8)	運搬 伐採 除雪 (重)	運搬 伐採 (重 8~10)	山林, 伐採, 鉄 道, 石灰工場, 石粉, 石砕 (重 8)	鉄道 一部は運搬 (重)	駅関係及市内運 搬工場雑役 (中 重) 駅石炭車下 (重 8)	自活作業 (中) 10 炭坑 (重) 10	石灰運搬 駅清掃 石灰卸下 (重 8~12)	伐採 丸太積重ね (重 8~10)	伐採, 道路, 自 動車雑役 (重 起床3~4時 帰所23~24時が 多い)	自活工場 (9)(12%) 運搬 (10)(75%)	製煉 (9)(90%)	運搬 (8)
鉄道 (重 8~9)	全 上	全 上	運搬 伐採 土工 (重)	ブルホース 若干名 流木, 草刈 (重)	野原刈, 大工, 伐採, 大理石彫 刻 (重 8)	全 上	全 上 一部は積重ね (重 8)	園芸農場 (中 8~10)	全 上 農 場	全 上	全 上 乾草刈 (重) 2~4より軽減さ す	自活工場 (9)(12%) 運搬 (10)(90-100%)	全 上	道路関係 鉄道雑役 (9~10)
全 上	全 上	全 上	運搬 鉄道 土工 (重)	運搬 伐採 (重多し) (重 8~10)	全 上	運搬 その他 薪切り (中)	全 上 農 場 (中 8)	全 上	全 上	全 上	全 上	自活工場 (9)(12-13%) 鉄道 (10)(90-100%)	全 上	鉄道 (9~10)
薪運搬 (重 4)	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	除雪 運搬 石灰積重ね下 (中)	全 上	-	石灰 炭 路 (重 8)	全 上	全 上	自活工場 (8)(13-15%) 運搬 (9)(90-100%)	全 上	全 上 (11)
道路新設 (重 9~10)	全 上 (重 8~9)	道路 運搬 (重 8)	農耕 (軽) 運搬 (中)	全 上	全 上	運搬, 農場 石灰積, 貨 車下 (中)	全 上 (8~10)	-	全 上	運搬 運搬 (中 8~10)	6月よりブリクキ 元帥として物す ぎ作業 (外場 死7名増すの 他外傷多発)	運搬 (8) (80-90%)	全 上	道路 運搬 (12)
橋樑工事 (中 8)	全 上 (重 9)	道路 (重)	伐採 (重) 運搬 (中)	全 上	全 上	運搬, フラット ホーム (ベトン) 運搬, 農場雑役 (中)	-	-	運搬 ボルト 石 刻 (重 8)	全 上	全 上	全 上	全 上	鉄道 (8~9)

			VI		VII			IX			X		その他		
ワット地区 村 院	タイ北ワット地区 吉川 朝雄	33,34地区 下村 栄作	アルタイ 地区 鈴木清一郎	第 40 宮本鎮治部	トルファン軍管区 関口 増雄	トルファン軍管区 関口 増雄	第 348 高橋 初郎	タシケント地区 甲村 勇	ウラル地区 木村房雄	高橋三郎石衛門	マルシヤンスク地区 沢香 清	5 2 村上 強	マルシヤンスク地区 本田 晋朗	2 0 照井 三男	カサフスタン 田中 英作
4	第5/12 (タイ北ワットから 36 Kmと235 Km)	第 325 アバカンスク	第 128 バルナウル	第 3 アルマータ	第 17 (第1中隊) タシケント	第 17 (第2中隊) タシケント	第 3 タムケント	第18労働大隊 キリマニマート	-	ウハ	第7064 マルシヤンスク	第 7 ハ ト イ	第7064 マルシヤンスク	第 510 クイズミエカ	第 11 アキサイ
株 (40%)	運 送 運 搬 (8)	伐採, 道路 工場建設 (8 但し作業場 遠く10~11のこ あり)	運 送, 雑役 工場, 一部伐採 (重中 8 一部 は12)	大部分 土工 一部分 機械作 業, 工場建設 (重中 8)	-	-	貨車積下し 鉛生産 運 送 (8~12)	-	薪採, 自動車貨 物積込(1~8) (2時間以内) ルマ完成)	伐 採 (重 6時 出所 18時 帰所)	薪採伐採 凍土掘取 ガス管増設 (重)	採 炭 積 込 (重 8)	伐 採 ガス管理役 (約 8)	積 込 伐 採 (重 8)	鉛 鉱 山 (きわめて重 8 次原則なるも往 便を以て12)
と (100%)	道路修理 鉄道作業 (9~10)	全 と (日食のため運送)	全 と	工場運送 1/4 運送作業 1/4 煉瓦工場 1/2 (重中 8)	運 業 (中 10)	製 材 (重 10)	全 と	一部 炭 坑 一部 貨車建設 も作業場とを隔 断後協力 (重中 8 原則)	全 と	全 と 運 業(中 8)	伐採, 織物工場 機上, 運瓦工場 (8)	全 と	伐 採 耕 場 (8~12)	煉 瓦 (重 8)	全 と
と (105%)	鉄 道 (9~10)	炭 坑 蒸気機工場 機 修 (8 厳守)	全 と	全 と	全 と (中 8)	全 と	全 と (冬に備えて馬 蹄鉄費が多く ある)	換炭作業に電燈 ブリコンパアー で全人工力に よる(8 原則は 37川で破入時16)	煉瓦造り 運 業 (10~15)	全 と	薪採, 收穫 (8~12) (12月より開始作業)	全 と	全 と	全 と	全 と
と (105%)	全 と (11)	運 業 工 場 (8 厳守)	全 と	全 と	全 と	全 と (重 10)	全 と	全 と	全 と (10~12)	全 と	薪採 伐採 (重 8)	全 と	積 込 伐 採 (重 11)	全 と	
と (107%)	道 路 鉄 道 (12)	全 と	全 と	大部分 運 業 一部(1割) 工場 機械作業 (中 8)	全 と	全 と (重 12)	全 と	全 と	炭 坑 (8~10)	全 と	薪採 工場作業 (9)	全 と	薪運搬 農業期 (8~12)	道 路 板 煉 (軽 8)	全 と
と (11%)	鉄 道 (9~10)	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と	煉瓦造り 運 業 (8~10)	全 と	薪運搬(重715) 工場作業(8)	炭坑場 水筒引き場作 (重 8)	全 と	煉 瓦 運 業 (重 8)	全 と

10
第8表 作業状況 (休み)

地域 巡視 区 隊 番号 (所管地)	I		II		IV		VII			X	その他	VII	IX	I	
	近海州地区 板 武雄	二本柳 蒲	別地 守	4夕 地区 柳原 芳樹	アムサ地区 鈴木 清一郎	ウネバツ共和国 工藤 正彦	第 348 高橋 初郎	第 386 藤原 勝市	トルクメン 関口 増雄	マリヤンスク地区 本田 哲朗	第 20 照井 三男	ウネバツ共和国 血藤 大男	折原 三郎 警門	ウラチオストック地区 福地 泰治	近海州地区 川口 幹夫
20 9 5 21 2	アルサム	トーキー	ソフカワニ	チプペケン	バルナナル	アングレン	チムケント	タシケント	タシケント	マリヤンスク	クイブリエフカ	タシケント	(ウハ)	ウラチオストック	セミヨノフカ
21 3 5 21 8	全 上	週に1回あり ノルマ遂行	月 2~3回	日曜は大半休 み	全 上		月4日の休日 も管内作業に 充足された	全 上	週1回	全 上	全 上	殆どなし	全 上	全 上	5月まで1月2 週 所長交替後 週1回
21 9 5 21 12	大隊長公休の件 につき所長と話し 月4回休める ようになった	全 上	月 3~4回	概して充分なり	月 約3回		月約2回	全 上	なし	全 上	全 上	11月以降月2回	全 上	全 上	週 1 回
22 1 5 22 3	公休にもやはり 管内使役作業あり	全 上	月 4 回	全 上	月 約2回		全 上	全 上	全 上	全 上	月 2 回	月 1 回	全 上	全 上	月 4 回
22 4 5 22 12	全 上	週 1 回 ノルマ例	月 4 回	全 上	月 約 3 回		月 約 3 回	全 上	全 上	全 上	週 1 回 雨天休業	全 上	月 2 回位	月 4 回	全 上
23 1 5 23 7	全 上	全 上	—	全 上	全 上		—	全 上	全 上	全 上	全 上	なし 正月一日のみ休	月 1~2回	週 1 回	全 上

第4表 金銭給与の状況

地域 記号 備考 収得所(所在地)	I						II			III		IV			V		
	沿海州地区 藤井 晃雄	ハロフスク地区 二本柳 清	第 5 高橋 一	第 11 高橋 定彦	第 46 藤川 幸馬	ニライエフスク地区 山下 八郎	沿海州地区第1 門脇 正	沿海州地区第1 山崎 勝彦	第 1 天路 富	アムール地区 稲田 米吉	第 30 横田 政友	44 地区 海老名 光彦	117-77地区 藤嶋 義雄	第 34 下村 栄作	第 31 黒沢 一明	4化 第	
第 6 アルチヨム ケリース	第 525 トッキー	第 305 ハロフスク	第 4 スーヤマン	9. 10. 1. 3. ヒラカン ピンカン	第 21 ニライエフスク		第 124 コムソリスク	第2(病院)1449 ムリ	農 場 防務ミキエフスク	第 8 ウランウテ	第 512 キアハイゲン	第 424 イルクーツク	第 3 アバカフスク	第 8 キエレンホーホ			
20 9 21 2	なし	なし	なし	なし	なし	なし	全くなし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	
21 3 21 8	あり	全	全	全	あり	あり	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	
21 9 21 12	全	全	全	小隊長1月50 ルーアル支給さ る	なし	全	全	全	全	9月分15ルー アル受領	全	全	全	全	全		
22 1 22 3	全	全	全	小隊長にて坑内 に働く者一部支 給を受く	あり	なし	大隊長 200 ルーアル 中隊長 70~100 兵 10~200 支給されることあり (但し関係金加給 受ける者50名位)	全	全	なし	小人数のみ支給	全	全	作業能率よき者 にあり	全	全	
22 4 22 12	なし	あり 月1人当り30~ 40ルーアル	あり 一回	坑内作業に従事 する者には時に 支給地と作業なし	全	全	なし	全	全	7月 200ルーアル 8月 25ルーアル	なし	全	全	全と個人毎に よく作業能率上 り受給者数増す	あり	1ル 高4 まで	
23 1 23 7	一	全	あり 三回	坑内および地上 作業に従事せる 者1ルアルに5リ受給	全	4月より5月ま まであり以後はなし	前官 1月 10ルーアル 後官 1月 15 10月より1月ま まで受領	全	全	なし	全	全	全	全	全	全	

V															VI			VII		
第34	第31	タイセット第7	タイセット地区	タイセット地区	タイセット地区	アルタイ地区	アルタイ地区	小泉 六一	タシケント地区	第348	第386	第386	タシケント地区	トルクメン軍管区	タシケント地区					
下村 栄作	黒沢 一明	芦川 茂	中村 暁	高橋善太郎	平井 進二	足立 弘	青木 照夫		宮田 章	高橋 初郎	長谷川 清	五十嵐三郎	高橋 久雄	関口増雄	中村 勇					
第3	第8	第2	第4	第12	第7	第128	第128	第372/6	独立第17作業大隊	第3	第2	第2	第13	独立17	第18労働大隊					
アバカンスク	チエレンホーホ		タイセット	タイセット	タイセット血く 105.17km	バルナウル	ヒースク	アングレン	タシケント	タムケント	タシケント	タシケント	タシケント	タシケント	フリトマニヤート					
なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	あり	平均20ルーブルあり	なし	なし	なし					
なし	なし	なし	なし	なし	なし	6月頃1回約 50名各人5ル ブル位支給す	8月頃一部の者 に支給さる	なし	なし	3/4のみ受 給す	なし	なし	なし	なし	なし					
なし	なし	なし	なし	なし	なし	機械職場のみ 一部あり	新たに支給額増 大す	1/3の者に若 干支給さる	なし	1/2受給	なし	あり 平均50ル-7ル	14~130円	なし	なし					
能力なき者 あり	なし	なし	あり	なし	一部のみにあり	なし	受給者250名 に及ぶ	あり	なし	約1/3受給	なし	なし	なし	なし	なし	こゝ一部の作業 者(十数名)に月 100留前後支給				
個々気候 作業能率上 給者減増す	あり	1ルまで先行者最 高40ル-7ル まで支給さる	なし	なし	なし	なし	7月頃より定時 支給となる 300名位	約1/2受給す 人員は若干の にてあり	なし	約1/3受給	なし	あり 平均40ル-7ル	なし	作業成績のよい 者に若干あり	なし					
なし	なし	なし	なし	あり	105%以上の者 にのみあり	なし	なし	1/3の者に若 干支給さる	なし	なし	なし	あり 平均100ル-7ル	なし	なし	なし					

		VIII	IX			その他	
トルクマン軍管区 関口増雄	タシケント地区 甲村 勇	木原 忠次	カサン地区 日野壬子男	新藤三郎右衛門	マルシヤンス地区 浅香 清	第 53 灰 清 悟	第 19 三 朋 哲一
独立17 第1中隊	第18労働大隊	第 37		ハラエン	第 17064	第 3	第 7
タシケント	フリママーケット	バルハシ	エラブカ	ウハ	マルシヤンスク	エレグフカ	アロチカ
存 し	存 し	21年度より更 給する (150留)	存 し	存 し	特攻手当 佐官月15留 尉官月10留 下士官存し	存 し	存 し
全 と	全 と	全 と	月10ハフル	全 と	全 と	全 と	全 と
全 と	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と	あり	全 と
全 と	ごく一部の増業 者(十数名)に月 100留前後支給	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と
作業成績のよい 者に若干あり	存 し	全 と	存 し	全 と	全 と	存 し	ハルマ進行者に対 しては收容所にお いて頭を叩ねわ ずハタバコ代を 出した
全 と	存 し	存 し	全 と	全 と	全 と	全 と	全 と

第10表 慰労・入浴の状況

地域	II	IV	V	VI						X	XI	その他	
地名	ハバロフスク 二本柳 満	第 1 高橋経男	千 夕 川崎幸次郎	第 7 戸川 元	第 107 共和園 工藤 正彦	第 386 藤原 勝市	第 386 長谷川 清	第 348 高橋 初郎	タシケント地区 高橋 久雄	ムルシヤンスク地区 小泉 六一	タシケント地区 本田 哲郎	カケン地区 日野千子博	第 20 照井 三男
収 入 所	第 525 トーキー	第 532 ソフガワニ	第 518 ヤシロノカ	第 2 タイゼット	第 372.2分所 アングレン	第 12 タシケント	第 2 タシケント	第 3 タシケント	第 13 タシケント	372/6 アングレン	第 7064 アングレン	イラブカ	第 510 タイシエフカ
20 9 5 21 2	入浴 週1回	殆どなし 入浴 週1回	なし	なし	日本側演劇団 入浴 月2回(木桶1杯水浴の程度)	入浴 2週間に1回	あり	1日に1回位、町の浴場を使用	入浴 月2回	入浴 2週間に1回	入浴 週1回	入浴 10日に1回	入浴 週1回
21 3 5 21 8	全上	各中隊で演劇会 月1回 入浴 週1回	入浴 月2回	なし	全上	全上	入浴 週3回	全上 2月に3回位映画見物	入浴 週1回 野球演劇会	入浴 少(水少ため)	入浴 2週間に1回 6-8月 水浴	全上	入浴 10日に1回 文化演劇あり
21 9 5 21 12	日本人楽団と演 ソ連人楽団と演 入浴 全上	各中隊で演劇会 月1回 入浴 10日に1回	全上	入浴 月1回	全上・演劇と入浴は頻りに行われた	全上	全上	全上	全上 映画演劇会	入浴 週1回 演劇会 月1回	入浴 週1回	全上	入浴 週1回(煙工のみ毎日) 文化演劇 あり
22 1 5 22 3	全上	全上	全上	全上	映画は頻りにあり日本側演劇団は毎週日曜日に公演した	全上	全上	全上	全上	なし	全上	楽団楽団 編成	入浴 煙工のみ 月1回 他の入浴 なし
22 4 5 22 12	日ソ楽団、映画 等来演 入浴 週1-3回	入浴 週1回	全上	演劇同上演 3月に映画観望 入浴 月2回	全上 入浴設備は日本式に改装され週1回の観望演劇と共に入浴が兩行され衛生的に向上した	全上	全上	全上	全上	映画 度々	全上	なし	入浴 週1回 文化演 なし
23 1 5 23 7	全上	入浴 10日に1回	全上	全上 入浴 月3回	全上	全上	入浴 週5回	全上	全上	入浴 週2回(日本式浴場) 映画 月1-2回	全上	なすきに等しい	入浴 週1回 映画文化演劇

押留地獄状況の推移

50~75g、野菜(馬鈴薯、塩漬野菜、乾燥野菜) 700~900g、砂糖30g、食用油5g、バター15g、塩5g、茶3gとなっていて野菜の多いとき雑穀との換算率は10対10とし、魚は生魚定量を示し干魚のときは1/2に換算する。肉は骨付生肉で産肉又は腸詰の場合10対6の割合にし、生野菜と乾燥野菜の比率は10対1、換算の比率は肉と魚66対100、油と魚100対223、バターと魚100対336と示されている。

この換算率は示例栄養の給与規程に基いて作られたものであるということであるが、これについて食品分析表により各種栄養素およびビタミン(V)量の近似値を換算して第13表に掲げた。すなわち、蛋白質VAの少ない傾向のある他は総熱量においてもほぼ日本人の需要量を満たしていることになる。

第13表 停留給与規定の規準量による摂取規準の概算値

総熱量	蛋白質		ビタミン		カルシウム
	量(g)	動物質(%)	A(I.E.)	B(γ)	
2048 ~ 3574	67 ~ 128	23 ~ 32	3722 ~ 7530	1473 ~ 2956	481 ~ 930

(2) ノルマ給食

第14表にみる如く昭和21年10月頃(ビルビヤソン10月、ダケット、ハリコフ11月、スイソエフカ6月)からはほとんど全部の収容所において収容全員に対する定められた給与総量の枠において作業能率による給与方式が実施されたが、これは同22年12月末から廃止となった。

(3) 実際の給与量

実際の給与量は入所初頭には満洲より持参した一部のものを除き、アラチカの飯盆の中盆一杯の粥、イルフーツクの規準の1/3量等、額と共に収容所によつて相違するが、一般にコムソモリスク、ライチハ、ニコライエフスク、ライチヒンスク、マルシヤンスク等ほとんど定額通り支給したところ、又21年6月には穀類さえ出ないというスリダヤツカの如きもあるが、一般に支給量は規準量に満たない。

第15表 抑留地における熱帯供給状況 (○印は指標不満足を示す)

時期	地名	摂取熱量 (cal)	消費熱量 (cal)	作業	報告者
昭23.春	アムモースク	2,638	—	—	又保
昭23.4	ヘルフニ	3,150	—	—	〃
昭20.11	イルグーツ	2,000以下	3,500	伐採	宮永
昭21.4-6	ナホカ	2,450	—	—	川口
6-10	〃	2,120	—	—	—
昭21.9-22.5	ハラフン	1,737 ~ 4,579	—	道路作業	—
昭22.1-3	サビタヤ	3,000 内外	4,000-5,000	伐採	稲田
昭22.2	サビタヤ(6隊)	1,400 ~ 2,000	—	病状	高橋松原
昭22.5	〃	2,300	—	〃	〃
昭22.4	エラプカ	2,000以下	2,800以上	伐採	入沢
昭22.7-9	チゴ	2,315 ~ 3,739	—	道路作業	—
昭22.9	クレストヤルスク	2,500	3,500	—	東正新中村
昭22.11	ボートワ	2,000 ~ 3,500 (3,200)	3,500以上	伐採	村上
〃	サボオノツク	—	2,700	—	山下

第15表に示した抑留地における熱帯供給状況について引揚元単位より得た成績を見ても、重労働ないし最重労働とみられる。これらの作業における要求量3,000~3,300 cal⁹⁾におよばぬことがみられる。実際に給与せられた献立表につき私が計算した摂取栄養量を第16表に示した。但し食品成分はその産地貯蔵法等により割増があり、こゝに実際についての食品分析の結果は得られないので本邦における食品栄養価表¹⁰⁾を基礎としてその近似値を得るに止めた。すなわちパンは黒パンとし水分の多い粗製品であるということであるから栄養価の値に0.8を乗じ、肉は骨、内臓を含むので栄養価は肉と内臓の中商値として可食率を80%とみ、魚の可食率は60%とし、Vの調理による損失はB、 $\frac{1}{2}$ 、C $\frac{3}{4}$ とした成績を括弧内に記しておいた。一方VC含量は貯蔵による損失が大きい、しかしその損失量は貯蔵法によつて異なる。細井¹¹⁾は冬季満洲において地下式貯蔵庫貯蔵により30~40日で甘藍は $\frac{1}{4}$ に、馬鈴薯は $\frac{3}{5}$ に減じ、3~4ヶ月後馬鈴薯、大根等初期の $\frac{1}{3}$ ~ $\frac{1}{2}$ に減じたといひ、SALMON¹²⁾は馬鈴薯についてスケ月で30~40%、3ヶ月で45~50%、4ヶ月で50~60%、5

地域 地名 職名 住所(所在地)	14	15	16
タイゲント地区 中村 勇	ウズベック共和国 近藤 久男	マルシヤンスク地区 浅香清, 本田哲朗	
第18労働中隊	独立作業17中隊	第17064	
フリトマヤート	タシケント	マルシヤンスク	
作業成績良好者 には魚、乾魚等 若干の増食があ つた。	—	定量支給	
20 9 5 21 2	ル つ イ		
21 3 5 21 8	ル つ イ 増食禁止	店 こ 合 と	合 と 合 と
21 9 5 21 12	な し	合 と 合 と	合 と 合 と
22 1 5 22 3	作業成績不良者 は増食と稱して 給食を減じた。	合 と 合 と	合 と 合 と
22 4 5 22 12	な し	合 と 合 と	合 と 合 と
23 1 5 23 7			

21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100

14
第1表 糧食（ノルマ給与状況の概要）

年度	I					
	沿海州地区 梶 武男	沿海州地区 川口 幸夫	沿海州地区 宮原 一雄	ハロフスク 二本柳 清	第 5 井原井一	ニライエスク 山下 八郎
20	アルホーム	第 15 セミノフカ	セミノフカ ツインキー	第 525 トーキー	第 305 ハロフスク	第 21 ニライエスク
21	ノルマによりい つとも変動つて いた	糧食は日によつ てあつたりなかつ たり 当時はまたノル マ給与なし	なし	ノルマによりと 下あり	あ り	ノルマにより食 糧の上下あり
21	地下地と変りず %給与	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上
21	%給与なし	%食を実施する ようになつた	あ り	全 上	全 上	全 上
22	—	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上
22	沿海州から5月 よりまた%給 与された。	なし	全 上	全 上	全 上	全 上
23	%給与なし	なし	なし	全 上	4月よりなし	なし

年度	II									
	沿海州第1 門脇 正	沿海州第1 山崎 勝郎	第 1 所部 陸男	第 1 矢島 富	夕夕 地区 井上 春吉	第 20 鎌田 哲郎	第 19 細冠 保	夕夕 地区 武村 康	ウラヌチ第3 梅田 政夫	ウラヌチ第8 ウラヌチ
20	—	第 124 ユムソリスク	第 532 ソフカワニ	第 2 (病院) 1449 (ムリー)	第 6 スコフルキヤ	第 1 アラシキシキス	第 1 ライチハ	7~11 エロアパウロウイカ	第 8	ウラヌチ
21	なし	—	あ り	あ り	なし	なし	なし	なし	なし	なし (きわめて不良)
21	100%以上砂糖4 g 粗穀50g程 程度に該当者作 業人員の1%位 なり	—	全 上	なし (給食中には此 増配あり)	全 上	全 上	あ り	多少はあつた	全 上	全 上
21	125%以上砂糖4 g パン100g 粗穀 100gの増加あり 作業人員の1%位 なり	全く定量通り及 給 増配は不定期 あり	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上
22	100%以上砂糖粗 穀パン増給あり しかもこれに該当 するもの総量の 1%位のものをなり	全く定量通り	全 上	全 上	2月下旬頃 あり	全 上	糖々工夫をこら して色々に調理 し味覚を唆るもの あり	全 上	あ り	あ り
22	兵団様ノルマ給 与による作業量 より5%以上増 減あり少き こと多し	全 上	基本定額なき より全額前	全 上	5月下旬にノ ルマ給与中止	ノルマありAB Cの給与とほる	全 上	全 上	全 上	全 上
23	なし	定量通り及給	全 上	なし 作業中には増配 あり(銀欠形)	—	全 上	全 上	なし	なし	なし

医
の
あ
ら
び
二
食
は
の
値
調
一
に
大
ケ
5

IV	
ウラヌ第30 栁田 政友	千夕 地区 柳原 芳樹
第 8 ウラヌ	511 チブハイゲン
なし (きりめて不良)	なし 後期に多少あり
全 上	多少あり
全 上	なし
あり	全 上
全 上	全 上
なし	全 上

V		VI		VII		VIII		IX		X	
第 34 打 学作	ソイゼット地区 柳田 学	タイゼット地区 中村 暁	タイゼット地区 平井 重二	アルタイ地区 鈴木清一郎	アルタイ地区 青木 照夫	小泉 六一	ウベツクス地区 工藤 正茂	ウベツクスタン地区 佐藤 寛太郎	第 348 高橋 初郎	第 40 宮本 領治	
3 コンスタ	第 2 カスターロ	第 4	第 17 タイゼット支部 105.17 Km	第 128 バルナウル	第 128 ヒースク	第 372/6 アングレン	第 372/2 アングレン	第 3 ベグアード	第 3 4ムケント	第 3 アルマー	
給与なき にて作業 ふい者に よって増食	なし	あり	なし	なし	一 率	ソ側にて%給与 しあるも省方に おいて実施せず	なし	あり(不良)	工場給食を削減 す	なし 100% 進行者 僅少のパン増 あり	
量内にて増食 出せり	あり	全 上	あり	全 上	ノルマ	全 上	ノルマによると 当方では一般平 均を外れた時は 100%以上に対し て増配す	全 上	ノルマ良好につ き工場ならぬに 収容所における 増食あり	全 上	
なし	全 上	全 上	全 上	あり	ノルマ幾と 一率となる	%給食を定率す	全 上 時に勤労働に対 し若干の増配あり	あり	工場、収容所の 増食停止せられ ノルマ給与開始 する	全 上	
食ありて変 り重作業程 給与を上げ	全 上	全 上	全 上	なし	ノルマ 復活す	ノルマ重き作業 では作業進まず 炭坑では主に技 術にて良好なり	ノルマの出来高によ り一級食より四級食 に分れ1日の定食に 対し1級は断然多く 4級は定食の3/5位 なり	全 上	あり	ノルマにより に分れた 126%以上 101-125% 81-100% 80%以下	
全 上	なし	なし	なし	全 上	ノルマあり 但し日本人側 において一率給与	重作業は日本人の 特加に比しノルマ高く 困難な作業に従事す るものは多少と水 食量は少なかつた 採掘関係はノルマ何と した	ノルマ給与は11 月まで強行され た 12月以降等食 となる	8月より%食 くなる	全 上	全	
なし	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	全 上	なし	なし	ノルマ給与	

VII		
タシケント地区 宮田 章	第 386 藤原 勝市	第 長谷
独立17作業大隊 タシケント	第 12 タシケント	第 三
なし	なし	なし
全 上	全 上	あり
全 上	あり	全
全 上	全 上	全
あり	12月以降には なし	全
なし	なし	なし

VII				VIII			
ターゲット地区 田 章	第 386 藤原 勝市	第 386 長谷川 清	第 386 五十嵐三輔	ターゲット地区 高橋 久雄	ターゲット地区 中村 勇	ウズベック共和国 近藤 久男	マルシヤンスク地区 浅沼清, 本田哲朗
作業大隊	第 12	第 2	第 2	第 13	第 18労働中隊	独立作業17中隊	第17064
ターゲット	ターゲット	ターゲット	ターゲット	ターゲット	フリトマシヤト	ターゲット	マルシヤンスク
シ	なし	なし	なし	なし	作業成績良好者 には炭・雑魚等 若干の増配があ った。	—	定量支給
ト	全ト /	あり	全ト	なし	ノルマによる増 減は作業所 績良好なる者 には増食あり	なし	全ト
ト	あり	全ト	全ト	主食のみノルマ によるト下取り	増食禁止	全ト	全ト
ト	全ト	全ト	全ト	なし	なし	全ト	全ト
リ	12月以降にはな し	全ト	全ト	全ト	作業成績不良者 は減食と稱して 給食を減らした。	全ト	全ト
シ	なし	なし	全ト	全ト	なし	全ト	全ト

留地汚染状況の推移

第16表 採取栄養調査成績 (実際の測定表による)

折	年月	旬	乾熱重	蛋白質		糖質	ヒト			備考
				量(g)	割合%		A(IE)	B.(g)	C(mg)	
ハ	21.9	上	3,197	82.4	0	0	712	1,463(994)	9.2(3.8)	青、野地を食す
		中	3,293	85.9	0	0	616	2,281(1,404)	6.1(1.5)	"
		下	3,390	92.4	0	0	326	2,537(1,531)	4.8(1.2)	"
		平均	3,293	86.9	0	0	551	2,094(1,312)	6.7(2.2)	"
イ	10	上	3,078	106.1	7.4	0	609	2,519(1,522)	6.8(1.7)	スリに交り、まじり
		中	2,974	106.1	7.4	0	608	2,515(1,520)	6.8(1.7)	(食料・水糞のみ)
		下	2,644	88.2	19.9	50	767	1,850(1,453)	42.3(10.6)	一週間に一回
		平均	2,899	100.1	11.6	17	661	2,295(1,498)	18.6(4.7)	"
エ	11	上	2,841	89.0	0	0	311	2,400(1,462)	6.8(1.7)	"
		中	3,223	116.8	19.1	20	915	2,609(1,567)	6.1(1.5)	"
		下	3,066	146.0	15.6	20	985	2,439(1,482)	6.1(1.5)	"
		平均	3,043	117.3	11.6	13	737	2,483(1,504)	6.3(1.6)	"
ロ	12	上	3,224	116.7	15.8	0	912	2,589(1,557)	4.8(1.2)	-50°C以下に凍る
		中	3,268	115.7	15.2	0	777	2,877(1,676)	2.6(0.6)	休地(3回)
		下	3,090	135.0	13.1	0	743	3,154(1,840)	1.6(0.4)	(休地)
		平均	3,174	122.5	14.7	0	811	2,857(1,691)	3.0(0.7)	"
ニ	22.1	上	3,086	157.6	11.2	0	705	3,419(1,972)	0	-53°Cに凍る
		中	3,269	129.4	13.6	0	962	3,042(1,784)	2.4(0.6)	一月中10日位休地
		下	2,119	108.3	10.3	0	567	2,479(1,502)	0	(植込み)
		平均	2,855	131.8	11.7	0	745	2,980(1,753)	0.8(0.2)	"
ホ	2	上	1,737	66.1	0	0	386	1,400(963)	0	肥料代金の増が 多く、草が 仕舞の増が 多い
		中	1,997	120.1	14.7	0	635	1,654(1,090)	0	"
		下	4,579	215.1	8.2	0	592	5,597(3,046)	0	"
		平均	2,771	133.8	7.6	0	538	2,884(1,700)	0	"
ヘ	3	上	3,345	198.5	8.9	10	815	2,567(1,543)	3.3(0.8)	糞尿をくみだす
		中	2,654	105.6	16.7	0	959	2,063(1,289)	2.0(0.5)	"
		下	3,402	114.3	15.5	500	1,765	2,610(1,568)	37.0(9.3)	"
		平均	3,134	139.5	13.7	170	1,180	2,413(1,467)	14.1(3.5)	"
ト	4	上	4,349	192.0	9.2	800	695	5,297(3,911)	48.0(12)	今までの経験して ここの草、17日 後には 葉が赤くなり 多い
		中	2,686	119.5	14.8	800	756	3,785(2,155)	48.0(12)	"
		下	2,247	114.2	15.2	17	450	2,103(1,314)	2.6(0.7)	"
		平均	3,094	141.9	13.1	539	634	3,728(2,127)	32.9(8.2)	"
チ	5	上	2,478	92.7	10.5	160	1,065	2,290(1,408)	9.6(2.4)	肥料が少い
		中	9,999	133.5	7.8	0	694	2,525(1,525)	2.0(2.0)	"
		下	2,440	94.8	11.2	20	1,044	2,130(1,338)	3.2(2.3)	"
		平均	2,639	109.3	9.8	60	934	2,322(1,424)	4.9(2.2)	"
リ	7	上	2,315	103.6	22.2	0	628	1,444(1,022)	0	肥料作業
		中	2,918	95.3	18.5	0	605	3,110(1,818)	0	下痢し、草が枯れ 葉が上りになり 多い
		下	2,918	95.3	18.5	0	605	3,110(1,818)	0	(よく刈るの代わりに 草刈り機)
		平均	2,717	98.1	19.7	0	613	2,555(1,553)	0	"
ニ	8	上	3,140	98.5	31.6	0	364	3,020(1,773)	0	10~20日水糞 撒き
		中	3,739	102.0	15.7	0	705	4,070(2,560)	5.2(1.3)	"
		下	2,859	77.1	13.5	0	315	3,565(1,783)	0	"
		平均	3,246	92.5	20.3	0	461	3,552(2,039)	1.7(0.4)	"
ホ	9	上	2,341	58.0	3.1	0	106	2,925(1,463)	2.0(2.0)	"
		中	2,445	60.1	5.8	0	180	845(835)	2.0(2.0)	"
		下	2,393	59.1	4.5	0	143	1,885(1,149)	2.0(2.0)	"
		平均	2,393	59.1	4.5	0	143	1,885(1,149)	2.0(2.0)	"
21.9	25.9	2,638	130.9	38.1	800	558	3,840(2,183)	7.8(2.0)	"	
21.9	2.4	2,150	93.4	0	0	254	3,533(1,977)	3.0(7.5)	"	

()は測定による損失を考慮に入れたもの。

ケ月で45~65%, 6ケ月で60~70%の損失を招来するとい
ているのでこゝにはこの報告を適用して算出することとした。

二葉氏の示したビルビジマンにおける成績は總熱量の不足と各成分
の質的な貧弱さを示した入ソ初期より次第に改善せられている。しか
もこの収容所における栄養の発生は後述の如く他地域に比し比較的少
い方であるから、こゝを以て栄養多発の地域における食糧事情の程
うがみられるわけである。

又昭和21年9月ないし同22年9月のイマン、ハラゴンや諸状況
の次第によくなって来た同23年春季においても總熱量は多く、含水
炭素が主でV.B.量は多いが動物質および野菜の補給に乏しく動物性蛋
白質、VAおよびCの不足が特に顕著な欠陥として指摘される。他に
食糧が不足しており、給与量の中には骨、野菜の茎の部分とか腐敗し
かけた部分、腐敗つきの穀物等総菜部分も含まれていたため実際の摂
食量は更に減る見込であり、吸収量は60%程度と引揚の元軍医は
みている。一方輸送および配給に計画性を欠き交通不便の地域では主
食が大豆のみ、菜のみ続くという如く軍調のことが多かった。昭和23
年6月頃ザプハイゲンにおける約2,600 cal.前後の總熱量では工場
農場等の作業には差支えないが伐採に従事すれば1週間で体重5~6
Kgも減じたという海老名氏の談話や第15表の成績からみて一般にエ
ネルギー供給失調の状態が多かったことがうかがわれるのである。

なお後報の如く野草を摂食した場合が多いがV.CおよびA源としての
の価値はあつても熱源としてはほとんど考慮するほどのこともない
ようである。

7. 一般健康状態

捕留者殊に元兵員の健康状態は時期と所によつて甚しい相違があ
つたのであるが、要するに食糧給与の程度と労働条件の二者を反映し
つゝ推移したと言ひ得るようである。

入ソより越冬後の昭和22年4~5月頃までが最も悲惨な状態にあ
つた。同期における死亡率を第17表に示す如く導引揚接護高嶺班
が得た資料に基づき、傳染病の多発しないノス5収容所について調べ

第18表 死亡率調査の地名

地域	地名
I	ウオロシフ、リボフエ、マンソフカ、スイソエフカ、イリフカ カ、マンレバロフ、ズンキカ、ホーマンギ、ウラジオストック、 テチコハ、スーキヤン、アルチョム、ズンドカ、ウスリー、 ビシヨフカ、フインキ、バザ、マキバーカ、イマン
II	コムソリスク、ホルモリー、ハバロフスク、ムリー、イナカ イヌバストコバヤ、プロクレス、トウ
III	スコアルチノ、アラゴウエシケンスク、クイウシエフカ、 ビラ、ライチハ、コヒナ
IV	アカチマチマ、ズレンスク、4タ、チプロヘイケン、バレー ガラ、ウランウチ
V	タイソツ、グラスノヤルスク、アバカンスク、トランスバリ、 チヤイナゴールスカヤ
VI	バルナウル、ロフトフカ
VII	アルマーダ、タシケント、ハククテール
VIII	ウハ、モロフスカヤ、ウクライナ、パチ、ウラル、チカロフ スベルドロフスク
IX	マルシヤンスク
X	コーカサス
XI	アロムゴビナト、アムガロン、カラント、ウアルキロテン マカタン

てみるに第18表にみる
ように144,683名中
11,505名が死亡して
いる。甚だしきは3,200
名中920名(21.1~4)
(総珍チフスノス、栄養
800、最も多い日は1日
25名)死亡のロストフ
カ、ス200名中900名
(主に栄養)死亡のアカ
チマチマ等がある。死因
は栄養がその大半を占め
次に肺炎が多い。これは
海老名、二葉両氏が特節
つたザプハイゲン第512
作業大隊およびビルビジ
マン地区第3収容所にお
ける人員損耗状況を示し
た第19表および第20表
からもうかがわれる事
である。第19表にみる如
く外蒙とIV、V、VIの中
部および西部アジアが最も
不良、コーカサスが最も
良好で、ハバロフスク附
近の沿海州、中央アジア、
欧露がこれに並いでよい
その後漸次改善せられ
たことはビルビジマン地
区第3収容所において確

第19表 入ソより翌年5月頃までの地域別死亡率

地域	調査の 人数	N	死 亡	
			人数	%
I	39	56645	2093	5.9±0.13
II	23	15635	665	4.3±0.16
III	9	22350	1563	7.0±0.17
IV	20	71170	3242	10.4±0.17
V	6	10672	4432	14.2±0.35
VI	2	5850	428	12.9±0.54
VII	7	4316	197	4.1±0.22
VIII	11	10588	135	7.2±0.26
IX	1	700	50	4.3±0.77
XI	1	2500	50	1.2±0.21
XII	5	7350	922	11.7±0.36
計	125	144683	11505	8.0±0.07
海老名 班	11	25350	7065	12.1±0.21

第19表

第19表 人員損耗状況の一例(チハゲン512作業大隊入ッ時500名)

年	元月	肺炎	結核	脚気	外傷	傳染病	その他	計
20	X	7	-	1	-	-	肺腫瘍1	9
	XI	3	1	1	-	-	肺腫瘍1	6
	XII	72	4	2	2	1	肺腫瘍1	82
	I	32	2	-	4	4	肺腫瘍1	44
	II	50	6	-	7	-	凍傷1	66
21	III	15	3	-	1	-	凍傷1	20
	IV	22	3	2	-	-	凍傷1	27
	V	1	-	1	-	-	-	2
	VI	-	-	2	-	-	急性腸炎1	2
	VII	2	-	1	-	-	-	3
22	VIII	-	1	5	-	-	同帰数	6
	IX	-	-	5	-	-	-	5
	X	1	-	-	-	-	-	2
	XI	-	-	1	-	-	-	1
	XII	-	-	2	-	1	-	3
23	I	-	-	1	-	-	-	1
	II	-	-	1	-	-	-	1
	III	-	-	-	-	-	食中毒1	1
	IV	-	-	-	1	-	-	1
	V	1	-	-	1	-	-	2
24	VI	-	-	-	-	-	肺腫瘍1	1
	VII	-	-	-	-	-	腹膜炎1	1
	VIII	-	-	1	-	-	-	2
	IX	-	-	1	-	-	-	2
	X	-	-	-	-	-	凍傷1	1
計	実数	12	3	3	3	4	17	32
	%	37.5	9.4	9.4	9.4	12.5	21.8	

第20表 人員損耗状況の一例(ヒルビヤン地区第3牧場所平均705名)

年	元月	肺炎	結核	外傷	傳染病	その他	計
1920	X	-	-	-	-	1	1
	XI	2	-	-	1	-	3
	XII	4	-	2	1	1	10
1921	I	1	-	1	-	-	2
	II	3	2	-	-	2	9
	III	1	-	-	-	2	3
	IV	1	-	-	1	-	2
計	V	-	-	-	-	1	1
	VI	-	1	-	-	-	1
	実数	12	3	3	3	4	32
%	37.5	9.4	9.4	9.4	12.5	21.8	

第20表

年	元月	肺炎	結核	外傷	傳染病	その他	計
1920	X	7	-	1	-	-	9
	XI	3	1	1	-	-	6
	XII	72	4	2	2	1	82
	I	32	2	-	4	4	44
	II	50	6	-	7	-	66
1921	III	15	3	-	1	-	20
	IV	22	3	2	-	-	27
	V	1	-	1	-	-	2
	VI	-	-	2	-	-	2
	VII	2	-	1	-	-	3
1922	VIII	-	1	5	-	-	6
	IX	-	-	5	-	-	5
	X	1	-	-	-	-	2
	XI	-	-	1	-	-	1
	XII	-	-	2	-	1	3
1923	I	-	-	1	-	-	1
	II	-	-	1	-	-	1
	III	-	-	-	-	-	0
	IV	-	-	-	-	-	0
	V	1	-	-	-	-	1
1924	VI	-	-	-	-	-	0
	VII	-	-	-	-	-	0
	VIII	-	-	-	-	-	0
	IX	-	-	-	-	-	0
	X	-	-	-	-	-	0
計	実数	12	3	3	3	4	32
	%	37.5	9.4	9.4	9.4	12.5	21.8

總者(1.2級)の百分率が2月以降6月まで55.2, 58.2, 58.4, 79.0, 86.3, 86.6(%)と月毎に増大した。例々、第18, 19表の死亡率の番がした事案からもうかづぬれる。

しかるに昭和21年10月頃以降休業能率による給与方式への変更後は、ノルマ標準の矛盾と共に鉄道作業(15~20%)、架橋、伐採(10~12.3%)の重労働で休業能率不乗のため食糧不足し、入ッ当時大半1級に属して1たにもかゝらず昭和21年6月頃には1級20%

年	元月	肺炎	結核	外傷	傳染病	その他	計
1920	X	7	-	1	-	-	9
	XI	3	1	1	-	-	6
	XII	72	4	2	2	1	82
	I	32	2	-	4	4	44
	II	50	6	-	7	-	66
1921	III	15	3	-	1	-	20
	IV	22	3	2	-	-	27
	V	1	-	1	-	-	2
	VI	-	-	2	-	-	2
	VII	2	-	1	-	-	3
1922	VIII	-	1	5	-	-	6
	IX	-	-	5	-	-	5
	X	1	-	-	-	-	2
	XI	-	-	1	-	-	1
	XII	-	-	2	-	1	3
1923	I	-	-	1	-	-	1
	II	-	-	1	-	-	1
	III	-	-	-	-	-	0
	IV	-	-	-	-	-	0
	V	1	-	-	-	-	1
1924	VI	-	-	-	-	-	0
	VII	-	-	-	-	-	0
	VIII	-	-	-	-	-	0
	IX	-	-	-	-	-	0
	X	-	-	-	-	-	0
計	実数	12	3	3	3	4	32
	%	37.5	9.4	9.4	9.4	12.5	21.8

第29表 一般の健康状態の推移（カッコ内の数字は被検人数を示す）

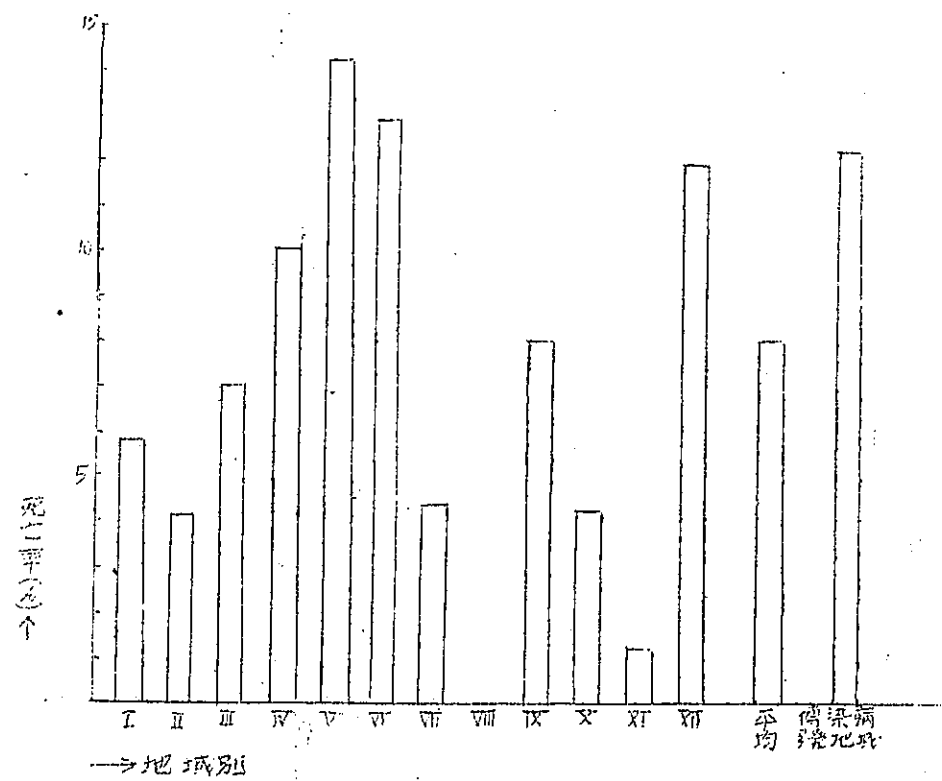
年次	I				II				III				IV			
	ウラチオ地区 福地 泰治	第 5 無器井一	引地 守	第 11 高橋定夜	沿海州地区 小野内正信	ビラ地区 今井敬一郎	沿海州地区 門脇 正	第 1 阿部 経男	千夕地区 井上 春吉	アムール地区 福田 米武	千夕地区 武村 謙	ウラチオ30地区 横田 政良	千夕地区 柳原 秀科	千夕地区 田村 正純	第 16 藤 沢	
45	第 13 ウラチオストック	第 305 ハロワズ	第 1分所 ソフガワニ	第 4 スーキマン	スーキマン	第 2 サイドビラ	第 1 ソフガワニ	第 6 スコフルクノウ	第 8 ウラチウチ	第 511 47ハイケン	シロキ	第 16 クワ				
20 9 5 21 2	不良 (1,000)	体力低下の別 (500)	-	最寒のために凍傷患者発生 受診110名 (450)	12月中旬より1月中旬に到る間患者250に達す (1,000)	1級者 50名 2級者 400名 3級者 150名 (健康状態) 100名 (700余)	体力とみに低下 受診者数1月10~20名程度 (500)	寒さに慣れずなり衰弱して来た 70~80 (1,000)	入浴時は一様に健康なるも21年1月末頃より体力減退 (500)	1日平均患者70~80 一般に不良 (500)	健康状態 中 患者 30% (2500)	不良 患者 約 2/3 (400)	悪 (約 450)	健康 状態 悪 患者 (200)		
21 3 5 21 8	全上	消耗増大 (498)	受診患者 30% (1,600)	一般に体重2月に比し若干増加 (700)	漸次体力消耗す (1,200)	1級者 50名 2級者 200名 3級者 150名 (健康状態) 300名 (700余)	当分所においては前分所における比較的改善の出来たるため前分所と比し比較的患者を減少 (500)	衰弱者も出たが夏季次第によく戻つた 患者 60~65 (約 700)	1月より5月下旬まで死亡者続出(約85名主として栄養失調) (500)	病人風邪程度 (500)	健康状態 不良 患者 45% (2300)	やゝ不良 患者 1/4 (400)	全上 (約 300)	概ね (100)		
21 9 5 21 12	良 (1,000)	消耗増大 (520)	受診患者 30% (800~1,000)	一般に体力の増強を見る体質も増加 (1,000)	21年10月より%給与のため体力急激に低下す (1,000)	1級者 100名 2級者 150名 3級者 50名 (300余)	詳細不明 患者 20名位と思う (主として胃腸病) (約 600)	不健康の者多く 体力さからず 患者 45前後 (約 600)	一般健康回復す (970)	健康状態 不良 患者 50% (2000)	患者 1/10 (400)	普通 (約 300)	回復 (100)			
22 1 5 22 3	可 (900)	やや好調 (430)	受診患者 10% (800)	%増食により増強を認められる (900)	体力全く消耗し最低位を示す (1,000)	1級者 150名 2級者 130名 3級者 20名 (300余)	体力とみに低下 栄養不良者約300名(側の命により健康回復期に達す) (300~1,000)	体力弱つて来た 患者 45前後 (約 500)	全上 (1,700)	一日平均患者10位 不良 (990)	全上 (1,700)	全上 (約 300)				
22 4 5 22 12	不良 (1,800)	体力弱回復 (350)	受診患者 5~8% (500)	健康状態良好有り 受診平均 65名 (700)	給与向と、転出のため衛生状態向とす(約 700)	1級 200名 2級 100名 3級 50名 (300余)	作業人員の約半数は3級者となす (272)	次第に受診に降るが回復も進んだ 35前後 (約 450)	健康 患者 10内外 (1,500)	病院下番の者と果物の実りと共に肥つて来て11月以降は街のラゲルに集結した際は我々の仲間が戻つていく警みれた (1800~4000)	全上 (1,500)	全上 (ナホカ)				
23 1 5 23 7	良 (400)	やや好調 (400)	-	健康状態可なり と夏負け患者多し (900)	所長の転出と共に極めて向とす (500)	1級 200名 2級 100名 3級 50名 (300余)	体力の現状維持 若干の挽回が見える (300)	健康状態や、良好と存す 患者 約 45 (約 500)	-	全上 (1,300)	全上 (ナホカ)					

				V				VI				VII			
今夕地区 田村 正紀	第 34 栗山 正紀	イルワーク地区 藤野 義雄	第 34 下村 栄作	タイゼット 香川 朝雄	タイゼット第7 芦川 茂	タイゼット地区 加藤 春	アルタム地区 尾立 弘	アルタム地区 香木 照夫	アルタム地区 義永 信雄	ウズベック共和国 工藤 正雄	ウズベックスタン地区 佐藤 昌太郎	40 宮村 義治郎	タシケント地区 宮田 章	386 五十嵐 三輔	タシケント 高橋 久
ミロキ	第 3 クラス/マウス	第 424 イルワーク	第 3 アバカンス	タイゼット	第 2	第 16 タイゼット	第 128 バルナウル	第 128 ビスク	第 1 ロソマカ	第 372 2分所 アングレン	第 3 ペグアード	第 3 アルマーダ	第 2 タシケント	第 2 タシケント	第 1 タシケント
悪 (約 450)	健康状態悪し最も悪き時は多は作業不能となる (2000)	全員病人と同様なり (500)	初期付脱力あり食好低下を食餌の不規則と環境の汚染に非ず原因不明なり(500)	1.2級 170% 3級 30% (約 800)	1.2級 90% 3級 10% (2500)	1.2級 350 3級OK 150 (2500)	21年1月頃になり急に悪化し2月頃 280-300体止(3800)	12月頃より著しく悪くなる保身隊増強増速増多し200 (約 1000)	跡継ぎ金、気候の関係により体力が低下し下り熱発症頻発多し2月頃より急激に激増せり4月頃迄 (3250, 1650)	この期間はずっとに弱体者O.K.3級の区別なし体力者も旧を脱す (約 1800)	入所当時作業機失調が多かつた死亡1~3名 (1500)	体力が一歩に低下の一途を辿り全員空腹にたえかねた (1000)	平均で健全 (500)	21年1月頃より著しく悪くなる保身隊増強増速増多し1000名 (3000)	
全上 (約 300)	概ね回復す (1700)	作業や、楽なためや、回復す (1000)	3月より5月頃増強(20名弱)OKとして脱力者および休養せり	1.2級 60% 3級 40% (約 800)	全上	1.2級 550 3級OK 150 (700)	2~4月中旬まで一段低下500体止6月900体止(2500)	や、可変音に何い何い保身隊増強6月以降著減60名 (約 1000)	体力は月日下り下り熱発症4月頃増強ために3月2日より5月8日迄作業休止(3250, 1650)	体位は1.2.3級に分れ受診平均4科3科外場化 (約 1500)	次第に弱体者も士地は合うようになつたと思はれる (1500)	「ワグ」収容所より新弱体者260名脱力しこれらの状態をきわめて悪く従来の者より回復良好なり(550)	全上	ビタミン剤のため寝う1日40% (1000)	
普通 (約 300)	回復す (1700)	ほとんど全病人同様	体力回復しあるも前よりの患者の多くなり(2000~1500)	他の収容所より健兵弱兵入替え (約 800)	1.2級 70% 3級 30% (1200)	健康 80% 弱 20% (700)	体力向上 受診者減少 (2500)	良 患者 60 (約 700)	気候風土に慣れ逐次良好と見られ3科受診者増多し (1650)	体位は向上受診1日内科外科15(約 1400)	全上	上記の弱体者も急激に回復し工場に復帰せよためこれらの者も逐次悪化せり	体力著しく低下足ひくんでいる者も感じか下 (120)	良 患者 1E (500)	
良 (約 300)	-	-	患者あるも作業能率により一定増強しは認められ全回復なり(2000)	1.2級 80% 3級 20% (約 1000)	1.2級 60% 3級 40% (1200)	健康 80% 弱 20% (620)	林務者1日50~60名 (2500)	良 凍傷 激減 患者 50 (約 900)	体力激減向上せよも熱発症物による患者多し (1920)	%給食による偏食のため体力低下す3級OKは全体の約2割強マラリア熱発症頻発続出 (約 1500)	冬季寒さと作業とカロリー不足のため体力低下す (1500)	21年春から22年3月までは給食も悪く炊飯火調者線出熱発症発病者多し (1100)	体位は回復し強健に大なり (180)	良 患者 1E (500)	
全上 (ナホカ)	-	健康を増進せず	患者減少せり	1.2級 75% 3級 25% (約 500)	冬季のため健康状態不良(1825名) (550)	健康 80% 弱 20% (300)	-	僅 貨車工場作業のため外傷患者増加40名 (約 700)	-	11月頃まで体力以上の作業に服した (1200)	-	11月頃まで体力以上の作業に服した (1100)	体位や、回復せり (180)	全上 (500)	
全上 (ナホカ)	健全 (700)	-	-	1.2級 80% 3級 20% (約 500)	1.2級 60% 3級 30% O.K. 10% (400)	弱 低下 (50)	-	全上 40名 (約 750)	-	平均平均食後は体位再び向上し3級OKは1割余に減す (約 1700)	5月頃まで体力以上の作業に服した (1200)	病兵帰還後には著しく悪くなる保身隊増強増速増多し (1300)	病兵帰還後には著しく悪くなる保身隊増強増速増多し (1200)	良 患者 1E (500)	

VII				Ⅴ		その他		
バグスタン地区 佐藤馬太郎	40 宮本鎮治郎	タシケント地区 宮田 章	396 五十嵐三郎	タシケント地区 高橋久雄	ウズベキスタン共和国地区 近藤 久雄	アルシヤンスク地区 本田 吾郎	第 20 照井 三男	第 52 村上 強
第 3 バグダード	第 3 アルマーダ	独立17作業中隊 タシケント	第 2 タシケント	第 13 タシケント	独立作業隊17中隊 タシケント	第7064 アルシヤンスク	第 510 クイアリエフカ	第 7 ハトイ
今時の栄養 調が多かつた ため1~3名 (1500)	体力は一般に低 下の一途を辿り 全員の腹にたえ かた (1000)	—	平均で健全 (500)	21年1月以降衰 えあり患者1日 30/1000名 (30000)	—	体力消耗著しき 者あり急性肺炎 約20 (3000)	12月まで健康 以降一般に年頭 に患者が多かつた (1200)	11月より患者が 800 (1500)
常に身体が士 気含うように なつたと思はれる (1500)	「エリカ」牧場所より前 弱者260名を確保し これらの状態をわめ て悪く従来よりは概 ね良好なり(550)	中 位 (240)	全 上	ビタミン欠乏の ため衰え 患者 1日40/1000名 (10000)	悪い患者 70 (250)	体力増大せり (3000)	健康状況 可 悪 者 少数 (500)	健康状況 通常 (1500)
全 上	上記の病弱者が 並進労働に専ら 互工場に従事せ るためこれらの 病弱者は減少せ り	体力 著しく低下 足 びく入っている 「悪い感」が 少 (120)	全 上	良好 患者 1日20 (500)	悪い患者 30 (150)	患者逐次減少 (3000)	全 上	一般の健康回復 (1500)
季節ごと作業 カブリー一か合 なくなつた (1500)	21年春から22年3 月までは徐々に悪 化して患者が減少 したが秋に悪化し る者多し (1100)	体重く疲労程度 に大なり (180)	全 上	良好 患者 1日30 (500)	や、悪い患者 5 (80)	患者逐次減少 (4000)	健康状況 不良 患者 多数 (600)	2級 30名 (300)
月頃まで身体 以上の作業に した (1200)	—	体力や、回復せ り (180)	全 上	良好 患者 1日25 (500)	や、悪い患者 15 (200内外)	患者 僅少 (1000)	良 (150)	1.2級 8割 他は良 (300)
月頃まで身体 以上の作業に した (1200)	病状軽減後なる により著しく悪 化し患者も一般 的に低下著し (1300)	病状の軽減に病 者元気が (120)	全 上	良好 患者 1日20 (500)	や、悪い患者 10 (100内外)	患者 僅少 (400)	良 (1000)	全 上

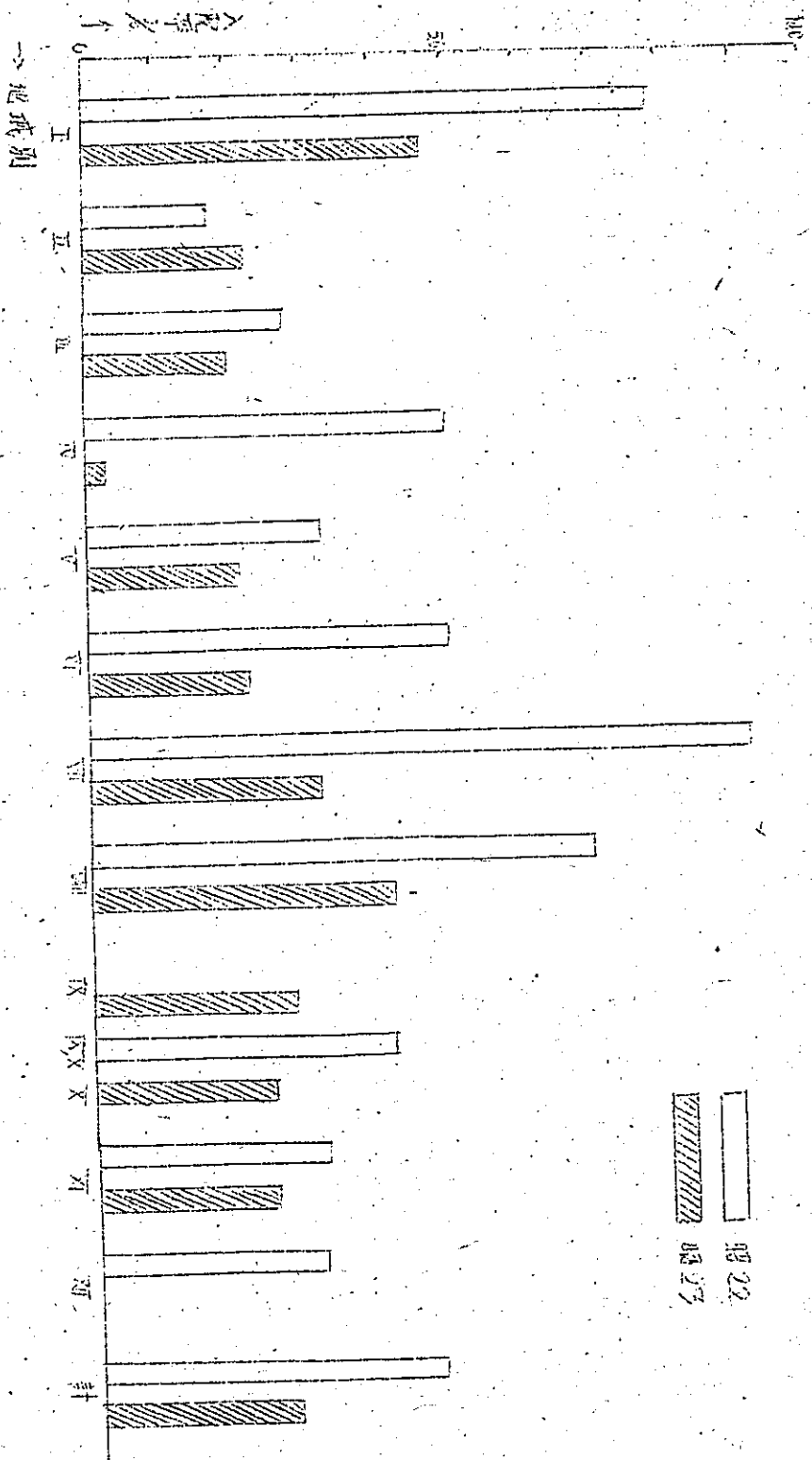
捕留地獄状況の推移

第1図 入ソから翌年5月頃までの地域別死亡率



2級
50%、3級
および0.1K
30%を示す
いたつたい
ワーク率
15、16收
容所、作業能
率がノルマの
40~50%
のため給与劣
悪で衰え表え
たとい、昭和
22年3月頃
のクラスノマ
ルスク等、弱
食あるいは
共食いとも
い、バきまわ

めて不良な状況を呈すること多く再び健康状態が低下して行った。
昭和22年12月末以後はノルマ給与を廃止して平均食となり、幣
費切下げ、金銭給与を行う收容所の増加率と共にとみに健康状態が低
悪した。
これらの状況は第21表の成績からよくうかがわれるところである。
引揚者の入院状況は第22、23表および第24図の如く地域によって差異
あり、前述の入ソ頭初における死亡率とほぼ一致した傾向を示すが、
昭和23年は前年に比し各地域とも入院率が著しく減少している。昭
和22年度の成績を同年6月までの他地域よりの引揚者の入院状況と
比較するに第24表に示す如く、ソ連引揚者では外傷、結核、榮失が
多く全体の入院率も高い。多くの犠牲者を出した後においてもなおこ



第2図 地域別入院状況

第12表 地域別入院状況 (昭和41-12月)

病種別	I		II		III		IV		V		VI		VII		VIII		IX		X		XI		全部		不明		計					
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%				
脳出血	14	0.5	10	1.2	10	1.0	5	0.3	0	0.0	1	0.2	4	0.5	0	0.0	1	0.1	1	0.1	9	0.9	0	0.0	0	0.0	18	1.8	1.8	0.2		
脳梗塞	453	19.6	152	6.5	26	0.9	96	16.0	99	8.4	28	10.6	34	4.9	49	16.0	4	2.7	4	3.5	12	15.2	0	0.0	0	0.0	107	16.4	11.5	6.2		
慢性心臓病	120	4.8	81	10.5	17	5.9	44	7.5	118	10.1	8	3.0	17	2.4	11	3.5	6	4.2	1	0.8	15	19.2	0	0.0	3	4.9	25	2.0	46	2.4		
結核	251	10.1	129	4.8	25	8.7	59	6.6	134	11.4	18	6.8	159	23.0	75	24.5	53	43.4	25	21.1	7	3.2	0	0.0	0	0.0	151	11.9	11.0	5.9		
肺炎	142	5.7	60	0.8	2	0.6	16	2.8	70	5.9	2	0.7	42	6.0	5	1.6	0	0.0	0	0.0	7	3.2	1	0.4	7	7.9	57	4.2	100	2.5		
胃腸病	17	0.6	11	3.6	1	0.3	3	0.5	17	1.4	1	0.5	10	1.4	2	0.6	0	0.0	0	0.0	2	1.6	2	0.8	2	2.3	5	3.8	2	0.5		
心臓病	77	3.0	46	0.5	17	5.9	24	4.1	41	3.5	19	7.1	59	5.6	11	3.5	5	3.4	6	5.0	5	5.8	2	1.2	2	7.9	7	5.4	58	1.9		
皮膚病	20	0.8	4	2.0	0	0.0	6	1.1	11	0.9	1	0.3	4	0.5	2	0.6	0	0.0	1	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	52	0.2
精神病	9	0.3	25	0.3	0	0.0	4	0.6	50	2.5	4	1.5	8	1.1	4	1.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	7	8.2	14	14.8	67	5.4	172	0.9		
消化器病	35	1.4	4	3.6	1	0.3	1	0.1	4	0.3	2	0.7	4	0.5	0	0.0	1	0.6	2	1.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	3.4	27	0.4		
呼吸器病	255	9.5	103	16.8	27	9.4	82	13.0	907	17.7	14	5.3	27	3.9	15	4.9	9	6.2	6	5.0	5	5.8	4	2.4	0	0.0	4	2.4	69	1.5	4.4	
その他	416	16.9	210	33.0	51	17.5	76	12.2	165	14.1	65	24.6	17	2.5	61	19.9	13	8.9	28	23.7	9	10.5	38	25.3	169	15.7	157	14.3	85	8.0		
計	552	26.7	404	10.9	390	28.6	599	53.7	271	25.8	388	38.8	169	24.5	61	23.6	43	30.0	41	35.5	40	35.8	39	24.6	59	24.6	570	50.5	2539	13.6		
N	222394		72616		10202		10819		57222		11290		7606		306		145		6405		2656		165		2762		21404		8806		479	
%	76±0.15		17±0.05		23±0.16		55±0.22		31±0.44		23±0.14		91±0.34		70±0.59		4.2±0.25		32±0.34		59±0.45		32±0.34		59±0.45		57±0.16		185000		136	